

おいしい OEC

## ニュースレター

Vol.21

2013年12月発行



## 【コラム】マングローブのつづやき ～その4～

## 漂着種子とウルトラマン

サキシマスオウノキの実が、ウルトラマンを連想させます。それに色ぬりをすると、子ども達は、よくウルトラマンの顔を描きます。今、国場川河口(漫湖)周りでは、サキシマスオウノキの青い実が見られます。これらの実は、やがて茶色に変わり枝から落ちて芽吹き、あるいは雨や海水に運ばれ遠くへ旅立ちます。16年前、漫湖の南(左)岸で、流れ着いたごみの中から茶色の実、サキシマスオウノキの種子を一個見つけました。外海と防波堤で遮られた内側に那覇港があり、さらに狭い河口の奥に漫湖は位置することから、これが南の島から黒潮で運ばれてきた種子でないことは容易に推測できました。漫湖の岸に流れ着くごみは、ほぼ全てが国場川と饒波川の流域から流れ

着いたものであることから、流域を知っていそうな方々へ訊き、ついに探し当てました。サキシマスオウノキの老木が2本、国場十字路横の民家の庭にありました。見つけた種子は残った2本がつけた実で、落ちた種子が雨で運ばれ、水路を経て国場川へ、そして漫湖の岸へ流れ着いたと思われます。

昔、漫湖は『やんばる船』が行き交うくらい深くて広がったと言われます。その頃、国場川の真玉橋や饒波川の石



漫湖南岸のサキシマスオウノキ  
(上から花、小実、青い実)

火矢橋より上流の海水が出入りする河岸では、メヒルギなどのマングローブ、そしてその後背地でサ

キシマスオウノキやサガリバナが生い茂っていたに違いありません。



色塗りに夢中の子供たち

ウルトラマンの生みの親と言われる脚本家の故金城哲夫さんは、サキシマスオウノキの実から、そのヒントを得たのかもしれませんが。マングローブやその後背地に生える木々は、毎年、おもしろい形をした水に浮く種子を沢山つけます。今、漫湖の周りでは、これらの種子から育て、移植したサガリバナやサキシマスオウノキが、花や実をつけています。ここは、沖縄の自然と環境を楽しく学ぶのに最もふさわしい場となりました。

(会長 下地邦輝)

## 国場川ワークショップ

漫湖もすっかり季節が変わって、カニやトントンミーの行動が活発な夏から、渡り鳥が飛来する冬になり、漫湖でもクロツラヘラサギが観察できる季節になりました。OECが2ヶ月に1回開催している国場川河川敷でのワークショップでは、サガリバナや水辺の植物の成長を助ける目的で、下草刈りや雑草の繁茂を抑えるために海浜植物を植えるなどの、手入れを行っています。11月16日のワークショップで草刈機を導入し、少ない人手を補って作業をしました。OEC会員は草刈機が不得意なフェンス際や手入れを行っている水辺植物周辺の草刈をしました。多くの人たちに親しんでもらえるような、整

備を行っていききたいと思っています。

国場川のサガリバナは今年も美しい花を咲かせ、実もつけているので、来年の開花も十分に期待できます。そこで、来年の6月か7月に国場川河川敷において試験的にサガリバナ観賞会を実施することになりました。

今年6月には国場集落と首里崎山町でサガリバナ観賞会を行いました。自治会や企業と協力して実施した首里崎山町には、2日間で一般の方と観光客合わせて延べ650人が訪れました。このことは今後、OECが地域を巻き込んだ活動をする上で経験となり、また地域活性化の一つのモデルになったと思います。国



サガリバナ及び水辺の植物の下草刈りの様子

場川のサガリバナ観賞会も、オーナーやワークショップ参加者の皆さんの意見をいただきながら、地域の人々が毎年楽しみにしてくれて、改めて身近な自然と環境に気が付く機会となるようにしていきたいと思います。これから、ワークショップをより楽しくするための工夫もしていきたいと思いますので、ぜひご参加ください。

(研究員 当山昌治)

## コカ・コーラ寄付金事業

昨年に引き続き、い・ろ・は・す“地元の水”応援プロジェクト『国場川(漫湖湿地)の水環境改善に向けた啓発活動』の寄付金事業に OEC が選出されました。寄付金事業を実施するにあたり、国場川水系にある学校・児童クラブに対して事前調査を行い、現在まで 38 団体中 5 団体が出前講座を希望しました。対象学校の要望(環境教育の位置づけ、プログラム内容、実施日時等)を確認し、次のよう



水鳥湿地センターの木道から底生生物を観察しました。

な流れでプログラムを組んでいます。

- ①講話:国場川の概要、河口域の現状や課題について知る
- ②視察:漫湖水鳥湿地センターを利用し、漫湖に広がる豊かな生態系に触れる
- ③実習とまとめ:地域の河川の水質を調査し現状を知る。さらに、他河川の事例を知り、国場川をキレイにするための意見交換を行い、校内または地域への発信を行う



長嶺中学校の総合学習では、身近な水環境を学びました。

近年は総合学習の1つに環境学習も含まれており、出前講座を実施していく中で、子供たちの環境への関心や知識が高いと感じます。このような中で、「環境保全是足元から」という理念を念頭におき、対象団体の周辺河川における水環境を子供たちと一緒に考えています。このコカ・コーラから寄付金をいただいて実施している環境教育は、OEC が今後も継続的に行っていきたいと思っている活動の一つです。地域の水環境について子供たちへ知ってもらう重要な活動だと認識しており、沢山の子供たちが周辺環境を知り、考えて自ら環境保全について行動してくれるよう、プログラムを工夫していきたいと思っています。

(研究員 当山昌治)

## JICA 地域別研修「島嶼国 水産改良普及員養成」

OEC では「島嶼地域における限られた地域資源を大事に保全しながら持続的に経済活動にも活用していく」という主旨で、JICA 沖縄および沖縄県との連携で開発途上国における水産分野の支援(研修事業の受託)をしています。

これまでの水産普及員の活動は、新規漁法の導入や漁具改善、漁獲物の鮮度管理等、漁業活動の技術的側面に対する指導が中心でした。一方で、近年の水産資源の減少傾向を受けて資源管理や漁業活動の秩序化といった漁業者の行動への働きかけに加え、沿岸生態系保全やバリューチェーンに対する理解、地場産業育成支援のノウハウなど、水産普及員には幅広い知識が必要となっています。

これまでこの研修は、太平洋地域だけを対象としていましたが、今回、カリブ地域で実施中の JICA プロジェクト対象6ヶ国も受け入れることになり、総勢 12 名で8週間の研修をおこないました。

水産資源の枯渇は世界中どこでも課題となっていますが、資源管理を前面に出した漁業者を縛るルールを作ってもなかなか守られないことが実際で、その取り組みの前に漁業者の生活を確保するために代わりとなる漁業技術の普及や代替産業に取り組む必要があります。

太平洋地域では沿岸水産資源の利用圧を軽減するために近海パヤオ漁法のニーズは高く、カリブ地域もプロジェクトでパヤオ技術の普及を目指しているため研修は大いに役立ったようです。

また両地域では過去の様々な援助で漁民組織が形作られているものの、多くの組織は機能していないのが実情です。



宮古沖のパヤオ操業実習。宮古の海人にパヤオにおける漁法を教わる。



南太平洋大学(フィジー)でパヤオ漁に備え漁具を製作。ここでも沖縄の技術・知恵が生かされている。

沖縄研修ではいくつかの組合を訪問し漁業協同組合がおこなう「販売事業」や「購買事業」が組合員(漁師)にとって重要な役割を果たしていることを実感し、各国で漁民の再組織化・強化の必要性を強く意識したようです。

なお今回、沖縄県が JICA 沖縄の要請に応じ在外研修に水産海洋技術センターの副参事を派遣し、フィジーの水産業の様子を見ながら、JICA 研修員や地元漁師に指導をして頂きました。次回以降も沖縄と大洋州諸国・カリブ諸国の懸け橋となるような研修を提供していきたいと考えています。(副会長 吉田透)

## JICA 地域別研修 「アフリカ地域 持続可能な観光開発(A)」

アフリカ地域持続可能な観光開発(自然及び文化観光開発)TICAD IV フォローアップ(A)研修を、8月19日～9月27日の間、実施しました。カーボベルデ、コートジボワール、ガーナ、モザンビーク、セーシェル、タンザニアの6か国から10名の研修員が参加しました。

アフリカの草原の雄大な自然資源を活用したサファリ観光や、サンゴ礁の海の資源を活用したリゾート観光、多様な民族の文化に触れてもらう文化観光など、アフリカの観光は多様ですが、その観光開発をいかに持続可能なものにするかを、沖縄や東京での講義、実習、視察をとおして学びました。プロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)演習では、慣れない手法に四苦八苦しながらも、共に意見を出し合い、プロジェクト作りの過程を体験しながら学びました。

また、沖縄の自然資源や文化資源を活用した観光地を訪れ、その実際を、現場の方々との意見・情報交換を通じて学びました。特に、東村で体験した民泊は研修員の印象に残ったようで、帰国後、自分の国へ導入を提案したいという人も何人かいました。東京研修で訪れた JATA 旅博 2013 国際観光フォーラムでは、国連世界観光機関(UNWTO)事務局長のスピーチを拝聴する機会を得て、貴重な経験となりました。

この研修では、各自の国の持続可能な観光開発に向けて、自分で取り組むことができる課題を抽出し、対策案を提案してもらいましたが、帰国後、この研修の成果を所属先と共有して、実際に取り組んでくれる研修員が一人でも多くいれぱと期待しています。

研修員の中には、帰国後もEメールで



PCM 演習の様子。吉田副会長の進行で、どのように問題を分析して課題解決のプロジェクトを作るのかを学びました。



東村での農家の宿泊体験。言葉の壁はありましたが、気持ちは伝わります。

お便りをくれる人もいます。

遠いアフリカで持続可能な観光開発を推進している帰国研修員たちと、今後も交流を続けていきたいと思ひます。

(事務局次長 立田亜由美)

## JICA 地域別研修 「中南米地域 熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営」

中南米諸国では大型リゾートホテル等の急速な開発による自然環境資源の劣化や環境破壊が問題視されています。その一方で、バラエティーに富んだ豊富な資源を持っておりそのポテンシャルは大変高いことから、環境保全と経済効果のバランスを保ったエコツーリズムは大きな効果をもたらす観光形態として各国で大きな期待が寄せられています。

エコツーリズム推進の取組みには、行政・民間・地域など各セクターがそれぞれの役割を果たしながら連携をはかることが重要です。この研修では沖縄を中心として東京や群馬の各地を訪問し、各セクターでの取組みや連携体制、各種企画のノウハウなどについて学ぶ9週間のスケジュールで実施しました。研修員には、どの訪問先でも自国での課題を共有しながら共通点を見つけ、解決策を導き



沖縄県観光振興課:エコツーリズム推進関連事業



東京都心部:都心の水辺でエコツアーを体験

出そうと積極的に質問や意見を述べる姿が見受けられました。研修の前半では概論や施策を学び、中盤からは実習や視察等で具体的な事例を見ながら人材育

プログラムやエコツアープログラムの作成を行いました。これらのプログラムの企画においては、学んだ内容を活用出来る点が多々あったようです。また、ご協力いただいた研修の受け入れ先や講師の方からも、研修員の国の現状や講義に対する率直な意見を聞くことは勉強になり、研修は情報交換の場として有意義だという声が寄せられました。そして、研修員が沖縄で学んで実際に帰国後に実施した活動があれば、ぜひフィードバックして欲しいなどといった意見もあり、受入側として協力をするだけでなく伝えたことがどうなったかを情報共有することには大きな意味があると感じました。今後も、研修員や県内各地の協力先の方々とのモチベーションを保ちながら研修運営に励んでいきたいと思ひます。

(研究員 余田幸和美)

## 活動一覧

## ■平成 25 年 7～12 月 活動実績

【地域活動】 ※②は寄付金事業、それ以外は自主事業

- ① 第 26,27,28 回国場川ワークショップ(漫湖公園ジョギングロード沿い)
- ② い・ろ・は・す“地元の水”応援プロジェクト(ココ・コーラ社)  
国場川流域の水環境改善に向けた啓蒙活動(来年 1 月まで)
- ③ サガリバナ観賞会(国場集落 6 月 29 日、首里崎山町 7 月 6 日、7 日)
- ④ ホームページリニューアル(9 月)
- ⑤ イベント出展: JICA 国際協力・交流フェスティバル(11 月 9,10 日)、おきなわアジェンダ 21 県民環境フェア(11 月 24 日)、第 19 回 国場川水あしび(12 月 14 日)

【国際協力】 ※下記は全て受託事業

- JICA 沖縄国際センター 課題別研修業務
- ① エコツーリズム研修(アジア大洋州地域)
  - ② エコツーリズム研修(ベトナム国)
  - ③ アフリカ地域持続可能な観光開発(A)
  - ④ 島嶼国水産改良普及員養成
  - ⑤ エコツーリズム研修(中南米地域)

## ■平成 26 年 1～6 月 活動予定

【地域活動】 ※③は寄付金事業、それ以外は自主事業

- ① 第 29,30 回国場川ワークショップ(2 カ月に 1 回第 2 土曜開催)
- ② サガリバナ観賞会(6 月下旬～7 月上旬に実施予定)
- ③ い・ろ・は・す“地元の水”応援プロジェクト(1 月まで)

【国際協力】 JICA 沖縄国際センター 課題別研修業務

- ① 島嶼国持続可能な観光開発
- ② 島嶼水環境の保全と管理
- ③ アフリカ地域持続可能な観光開発(B)
- ④ エコツーリズム研修(アジア大洋州地域)

## お知らせ

## ■ 会員さんの紹介

名前 當間民江さん  
お住まい 那覇市  
会員年数 約 3 年半



## Q…趣味や続けていることは？

農協の園芸サークルに入って 3、4 年になります。そのほか、生き物も大好きで家には犬やグッピーやカメ達がいる、鈴虫も飼っています。那覇クリーンビーチクラブの一員でもあり、瀬長島での清掃活動に参加しています。パッチワークも得意です。

(上の写真はご自身で作られたそうです！ジョウトウです！！)

## Q…来年のサガリバナ観賞会 in 国場川ではどういう事を期待していますか？

いつもワークショップで手入れをしているので、とても楽しみにしています。期待することはサガリバナのライトアップもそうですが、観賞会中のイベント(バーベキューなど)もできればいいですね。

## ■ ホームページリニューアル &amp; Facebook ページ開設

9 月からホームページをリニューアルしました。「お知らせ」欄にイベント情報も掲載していますので、一度アクセスしてみてください。また、Facebook にも OEC のページがあります。そちらにも、行われた活動等を随時掲載しておりますので、見たら是非「いいね！」👍 やコメントを書き込んで下されば幸いです。

## ■ ボランティア募集 ■

都市部に残された身近な「自然環境」について目を向けてもらうことを目的に、2ヶ月に1回、国場川河川敷においてサガリバナ及び水辺植物の手入れ活動を行っています。

参加者の皆さんとお手入れをしながら、水辺の自然や環境について理解を深めていきたいと思っております。

初めて参加される方でも一緒に楽しく作業できますので、ぜひご参加下さい。お待ちしております。



## ■ 新職員から一言 ■

当山昌治(国内チーム): 国場川流域の自然環境をワイズユースできるように頑張ります。どうぞよろしくお祈りします。

## 特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

## 自然と環境の保全是足元から！

おきなわ環境クラブ(OEC)は、水辺環境の環境保全活動をきっかけに、地域の自然保護や環境保全の気づきが広がることを目的とした、子どもと大人の NPO/NGO 団体です。

〒902-0075 沖縄県那覇市国場 370-107  
TEL:098-833-9493 FAX:098-833-9473  
e-mail :kokuba@npo-oec.com  
HP : <http://www.npo-oec.com>

